

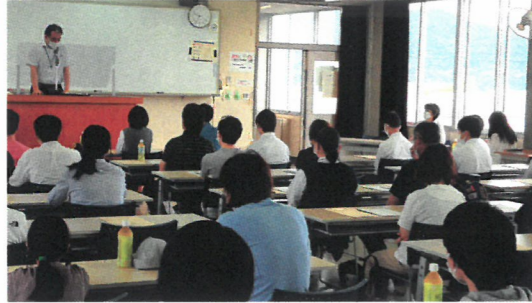


農大だより

URL <http://www.pref.kagawa.lg.jp/nodai/>

第30号 香川県立農業大学校
〒766-0004
仲多度郡琴平町榎井 34-3
TEL 0877-75-1141 FAX 0877-75-3989
E-mail : nodai@pref.kagawa.lg.jp

- オープンキャンパス
- 専攻実習の取り組み
- 活躍する卒業生
- 頑張る修了生
- 同窓会だより
- 技術研修科トピックス
- 学生募集



オープンキャンパス

新型コロナウイルスの新規感染者数が急拡大する中でしたが、農業大学校についてよく知っていただくために、八月七日の日曜日に、午前の部、午後の部、同じ内容で二回、オープンキャンパスを開催し、合わせて三五組、六八名の参加がありました。

参加者には、感染防止対策の検温、手指消毒、マスク着用を協力をいただき、体験実習は行わない全体で二時間の短時間での開催としました。

最初に教室内で、学校の令和五年度学生募集の説明を行い、次に校内に実習ほ場がない畜産コース、果樹園芸コースの説明を行いました。

その後、野菜園芸コース、花き園芸コース、造園緑化コースの順に、校内の実習ほ場や栽培温室、造園の実習庭園などを紹介しました。

参加者からは、「短時間だが学校のことがよくわかった」と感想をいただきました。



専攻実習の取り組み

イチゴの早期出荷技術の検討
野菜園芸コース 上本 颯人

私は、新聞古紙一〇〇%原料で作られたパーポットを活用して、イチゴの早期出荷技術の研究を行っています。研究では、地温を下げることでできるパーポットの特性を生かし、イチゴの花芽分

同窓会だより

山下 俊樹さん
(東かがわ市・大川支部副支部長)

私の実家は、その当時酪農、水稲、野菜の複合経営を行っており、幼少の時から農業の手伝いをやらされ、農業には

元のミニトマト部に所属し、部会の役員も任されています。ミニトマトでは、就農当時は失敗もありましたが、部会の先輩などのアドバイスにより栽培技術を磨き、最近では部会で第二位の反収をあげたこともあるそうです。

また、就農当初に植え付けたピワも近年、安定した収量が得られるようになり、経営を支える品目になったそうです。

農業は毎年毎年、反省点が見つかりますが、今後は、作業の効率化を図り、しっかりと休みがとれるような経営とさらなる反収アップを目指していきたいと未来を語ってくれました。

あまりよい思い出がありませんでした。しかし、父からの強い勧めもあり農大への進学を決めました。進学後は、実家の経営品目とは違う花きコースに在籍しました。

専攻実習は校内での実習を選択し、卒業論文に「ポインセチアの開花調整について」をテーマとして取り組んだことを今でも思い出します。

また、自宅が遠方だったため寮生活を送っていました。仲間たちと和気あいあいと楽しく過ごすことができました。

卒業後は地元の農協に入組し、営農指導員としてカーネーション、かすみ草等の担当となり、在学中の経験が生かされましたが、もっと勉強していればよかったと今更ながらに思います。

また、現在も農協、農業関係で農大時代の同級生、先輩や後輩と会う機会もよくあり、その当時の人との繋がりは貴重な財産となっています。

農業の担い手の高齢化、減少が進んでいます。やり方次第では農業は面白い職業だと思いますし、そして何より

技術研修科トピックス

就農準備研修、六カ月コースにリニューアル

就農準備研修は、就農準備に向けた社会人向けの短期研修として、これまで研修期間四カ月で年に三回実施してきましたが、令和四年度より、研修生が一連の農作業を適切に行うこととなく習得できるように研修期間を二カ月延長し、研修期間を六カ月に拡充して実施しています。

大特教習コースの障壁を新調

農業大学校では、農耕車限定の大型特殊免許等の技能講習を実施しています。昨年度末に老朽化していた障壁を新調しました。見通しの悪い道路を再現し、安全運転の技術向上が期待できます。受講者

経営感覚が大事であると思います。学生の皆さんには、在学中にいろいろな事を経験して、人との繋がりを大事にし、貴重な時間を過ごしてほしいと思います。



新調した障壁での大特教習

学生募集

入学試験

- 一般(前期) 入学試験
 - 願書受付期間
 - 十一月二十九日～十二月二日
 - 試験日 令和五年一月六日
 - 一般(後期) 入学試験
 - 願書受付期間
 - 令和五年一月二日～二月六日
 - 試験日 二月一四日
- ※詳細は本校教務課まで。

化を誘導することで、早期出荷を目指します。

この技術は、イチゴの花芽分化（花の基ができる現象）が特に温度の影響を受けることに注目したもので、通常利用されるポリポットよりも早い時期に花芽分化することが期待されます。

研究では、黒ポット、シルバーポット、ペーパーポットを用いてイチゴの出蕾時期を調査する予定です。

定植に向けた花芽顕鏡（花の基ができているかの確認）の結果、花芽ができていたのが調査を楽しみにしています。

今後、研究を通して、イチゴの生態を学び、就職先である香川県農協での仕事に生かしたいと思っています。

ケイトウ黄色系品種試作中！

花き園芸コース 三橋拓功也

私達二年生は、校内と農家に分かれて専攻実習を行っていて、私は校内で切花や鉢花などの栽培管理作業を通して花きの知識や技術を身に付けています。



専攻実習では、課題として、ケイトウの黄色系品種を新たに試作し、従来品種との比較や栽培特性等について調査を行っていて、今後は、調査データをとりまとめ、卒業論文を作成します。

専攻実習も含めた農大での経験が、社会に出て活かせるよう頑張りたいと思います。

ブドウ「シャインマスカット」について卒業論文作成中！

果樹園芸コース 柴田 隆輝

私達果樹園芸コースの二年生は、買田果樹園と農業試験所府中果樹研究所に分かれて専攻実習を行っています。専攻実習では、各々が専攻する果樹と卒業論文のテーマ



を決め、先生方から調査等の指導を頂きながら、取り組んでいます。

私は「ブドウ「シャインマスカット」における花穂整形（小房栽培）が果実品質に及ぼす影響について」を卒業論文のテーマとして、栽培管理や調査に取り組んでいます。

今年は酷暑が続く雨があまり降らず土が乾いていたため、毎週のようにブドウの樹一本一本に灌水を行いました。

また収穫期が近づくと、ハクビシンの被害が見られるようになり、私の試験区の果実も被害を受けて調査ができなくなるのでは？と心配しましたが、無事収穫と調査を行うことができました。

現在は調査データを整理し、卒業論文の作成に取り掛かっています。

めに牛群管理上の対策を考察して、経営継承までには、明確な具体策を打ち出したいと考えています。

活躍する卒業生

四国緑化産業株式会社

田中 輝政さん（高松市）



田中さんは、令和元年度に農業大学校を卒業後、坂出市にある四国緑化産業株式会社就職しました。

現在の会社は、造園部門と土木部門に分かれており、田中さんは造園部門で主に県道などの街路樹の維持管理や個人宅の剪定などの業務に携わっています。仕事の中では、先輩の方から機械の扱い方や剪定の仕方などを教わりながら、日々頑張っています。そして、「造園の仕事は、体力

卒業論文に取り組み中！

造園緑化コース 川口 拓夢



造園緑化コースの二年生は、校内と農家（造園会社）に分かれて専攻実習を行っています。私は、校内で剪定や竹垣製作などの作業を通して造園の知識や技術を身に付けています。

また、卒業論文の課題として、「竹を活用したベンチの製作」に取り組んでいます。全国的に放置竹林が拡大しており、大きな社会問題とな

はもちろん、剪定技術などの技術的なスキルが求められる業務が多く、とても大変な時もあるが、綺麗に剪定できた時は、とてもやりがいや満足感が感じられる。」と話していました。

頑張る修了生

井手上 しおりさん（高松市）



井手上しおりさんは、いきいきとミニトマトを栽培されているお母さんの姿を見て、就農を決意されたそうです。

就農に先立ち、平成二六年度に農大の就農実践研修で一年間野菜の栽培技術を学び、平成二七年四月に就農されました。現在の農業経営は、ミニトマト五aとピワー〇aで、地

っています。特に、竹の根は浅く、雨が降ると竹林ごと斜面を滑り落ちる危険が懸念されています。

このため、竹林整備で伐採した竹の有効活用を図るため、竹そのものの特徴を活かした工作物に取り組むことを考えました。また、簡易軽量炭化炉を活用して、造園技能検定の練習で使用した竹や端材を炭として再利用する取り組みも行っています。

このような農大での経験が社会に出て活かせるように頑張りたいと思います。

バルク乳の乳成分評価による飼養管理上の適否判定調査に挑戦中！

畜産コース 串田 雄基

私の実家は酪農家です。後継者として経営を引継ぐために畜産試験場の酪農肉牛担当で専攻実習を行っています。

生乳の集乳旬報は、毎月三回、生乳取引価格の算定根拠として交付されていますが、この記載項目は飼養管理の適否判定にも活用が可能です。



（写真は、四国生乳販連生乳検査課の生乳検査機器です。）そこで、実家と飼養頭数が同規模で、良質生乳を生産する畜試を対照区として、実家の酪農経営及び牛群管理上の問題点を抽出、改善点を見出す調査に取り組んでいます。

昨年五月から今年八月までの乳量、乳成分、体細胞数、細菌数等のデータを収集し、これらの項目から抽出された主な問題点は次のとおりです。

- ①牛群の泌乳量が少ない。
②乳質が安定していない。
③乳房炎の発生が多い。
今後、これらを改善するた